

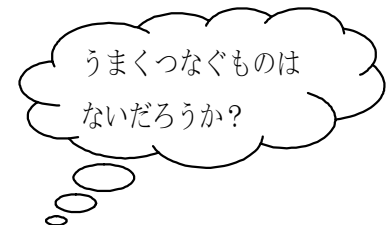
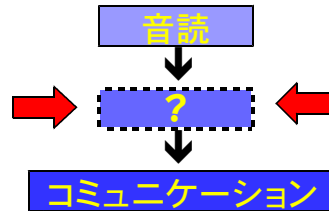
音読を実践的コミュニケーションにつなぐための授業改善

～ シャドーイングを中心とした指導を通して

外国語班 新井 芳彦（中学校教諭）

自己課題設定理由

「音読」の活動が「音読」の段階にとどまり、なかなか「コミュニケーション」の段階にまでつながっていない。



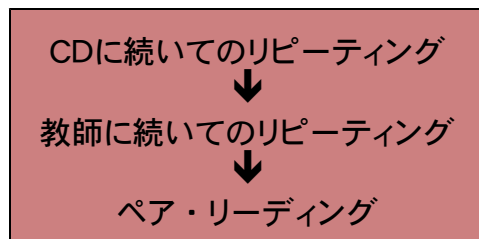
そこで・・・「シャドーイング」をやったらどうだろうか？

シャドーイングとは・・・耳から入ってきた音声を、"shadow"（影）のようにそっくりそのまま、あとについて復唱する訓練法。（・・・中略・・・）リスニング・スピーキングのトレーニングとして、とり入れられてきている。

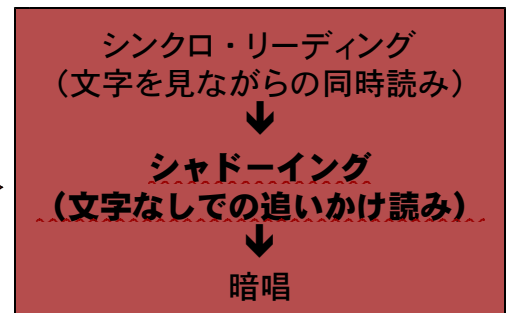
（『はじめてのシャドーイング』鳥飼久美子[監修]、学研、2007年 より引用）

実践の概要

初期段階の音読



発展段階の音読



コミュニケーションへ

成果

- ・シャドーイングなどで身に付けた英文を、コミュニケーション活動に活かすことができた。（自己課題の達成）
- ・自分の授業に広がりがあった。
- ・年間を通して取り組むことで、授業の中にシャドーイングが定着した。

課題

- ・シャドーイングに取り組ませる英文として、どんな文章が適しているか。（今回はDialogを中心に行った。）
- ・シャドーイングを行うのは、音読のどの段階がいいのか。（初期の段階か、仕上げの段階か。）